

# ●はなせ診療所そよ風だよりNo.2

2010年6月 内科 吉澤泰介  
漢方よもやま話あれこれ

そよ風が心地よく頬を撫でてくれる季節となりました。  
みなさんは田植えも終わって一段落というところでしょうか。  
新暦では7月2日頃にあたりますが、旧暦で半夏生（はんげしょう）という日があり、梅雨が明けこの日までに田植を済ます節目で、やっと一息つける日のことを言うそうです。  
ちなみに半夏とは、サトイモ科の多年草で、道端によく生えていて、昔は農家の主婦の重要な副収入源になり、別名へそくりとも呼び、こんにやくやサトイモと同じ仲間によく似た花が咲き、むかつきを止めたり、咳や痰を鎮める作用があり漢方薬に重用されています。花背では見かけないという声を聞きましたが御存じの方がおられたらぜひ教えて下さい。



へそくりのルーツ  
カラスビシンヤク

## ●はなせ診療所の日々

日々の診療では、まだまだ患者の皆さんの顔と名前的一致しない日々が続いていて、大変ご迷惑お掛けしています。はなせ診療所は、前任の高橋康廣先生が、地域の皆さんの日々の健康を守るために、都会でも一番と言われる診療所にひけをとらないぐらい立派なコンピューター医療システムを導入され（たとえば手書きをできるだけ排すようにされたカルテや、フィルムを無くしコンピューターの画面上で再生出来るレントゲンなど、）大変効率よく運営されています。

そのため、ここ花背の地に来てまだ3ヶ月ですが、もう数年分過ぎた気がするほど、その高度のシステムを覚えるのに日々苦闘しつづけています。（しかし、一方で人と関わることができるので、少々しんどいこともあっても心地よい疲れが後に残るだけです。）

また事務の佐倉さんと、ナースの堀さんが、疲れた私や患者さんを笑いこけさせてくれ、診療所に、なごやかな雰囲気を作ってくれているので本当に助かってます。

## ●花友はなせの日々

花友はなせの介護スタッフも、夜間など1人で認知症のため目の離せない人たちを20人もみて一睡もできないくらいの激務の中、心が折れないで頑張ってるその後ろ姿に自然と力をもらっています。（ちなみに花友はなせは、老人施設見回り監督官に、京都でNo.1の利用者さんを大切にしている施設だとの非公式ながらありがたい御評価をいただきました。）世間では介護の仕事を、きたない、きつい、賃金が安いなどと言うけれど、そういう目に見えないところで支えてくれる方々がいるからこそ、うまく社会が機能してるんだということを、ここへ来て改めて実感できました。

人はいくつになっても、他人が喜んでくれたら元気が出、ほめられたり必要とされると感じられたら自信が湧くように作られているもので、これからを背負ってる若者たちが、自分を含め誰もがたどるであろう人間の行く末の姿を見聞きできるという介護の仕事の特性を体験して、おばあさんおじいさんの笑顔から生きる力をもらえば、自分に誇りがわき、自信が持てるようになれると思います。そうなれば、責任を自分で引き受けられる魅力的な人になり、金が集まらなくても人が集まってくる人生がおくれると思います。しかし現実には、若者が魅力を感じられる職場にはほど遠く、離職者が後をたちません。

その為、その大きな理由の一つである介護職への、行政からの財政支援は、必須かつ急務だと言えます。